

会報

ひびき

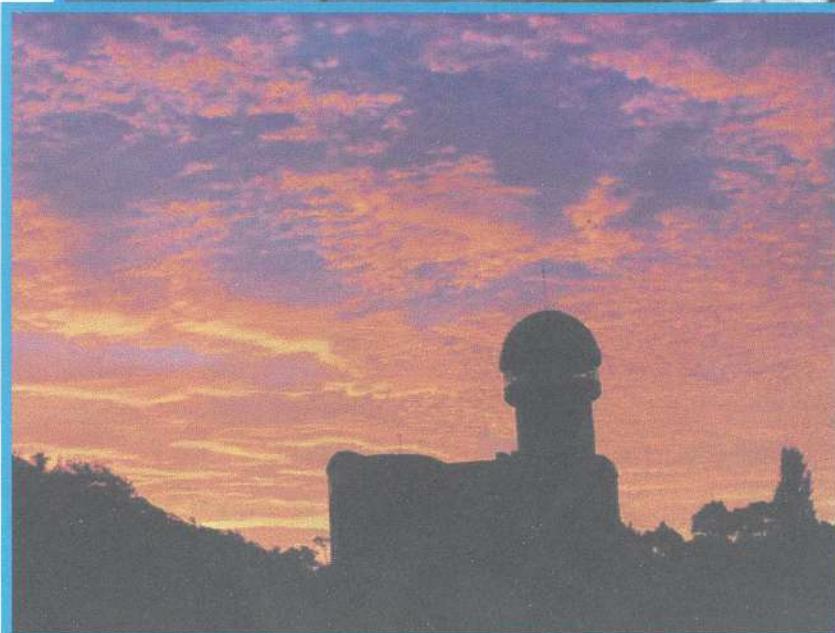
No.49



平成30年12月1日発行

発行者：我孫子市民生委員児童委員協議会

▶ 桟橋の秋光



1. 桟橋の秋光
2. 子どもを取り巻く現状と子育て支援
3. 育てるということ
4. 子ども関連レポート
5. 子ども関連レポート
6. 地域との連携
7. 地域との連携
8. お手軽レシピ / マッチ棒クイズ / 編集後記



「子どもを取り巻く現状と子育て支援」

子ども部 部長 森 和枝

民生委員・児童委員、主任児童委員の皆様、こんにちは。今回の会報では、「子どものことをテーマに」とのお話をいただき、感謝いたします。

私は、保健師として健康づくり支援課（保健センター）や高齢者支援課での配属が長く、今まで民生委員の方々には大変お世話になっており、支援が必要とされる方々を地域で見守り支える皆様方が、高い志を持ってどんなに大切なお働きをされているかを身近に感じてきました。皆様のご奉仕に心から感謝いたします。

さて、我孫子市の近年の出生数は、概ね 1,100 人前後で推移してきましたが、平成 21 年以降減少傾向となり、平成 24 年には 1,000 人を割り込み、昨年度は、770 人と少子化に歯止めがかかる状況にあります。その主な要因としては、出産適齢期の女性人口の減少や未婚率の増加、女性の社会進出、子育て世帯の経済的負担感等があげられます。そうした状況の中、市では、「若い世代に選ばれるまちづくり」「あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり」を目標に、市民の皆様に「我孫子で子育てできて良かった。」「我孫子に生まれて良かった。」と思ってもらえるよう、様々な子育て・子育ち支援を推進しているところです。

具体的な事業をいくつか紹介しますと、子ども支援課では、児童手当、ひとり親への児童扶養手当、子ども医療費助成、「学童保育室」と「あびっこクラブ」の運営、青少年の宿泊事業、「元気フェスタ」「子どもまつり」等地域の子どもイベントへの支援、また、少子化対策として婚活事業も展開しています。

保育課では、保育園幼稚園等の整備や運営支援、病児病後児保育、ファミリーサポート事業、市内 4 か所の子育て支援施設（広場）の運営等を行っています。

こども発達センターでは、発達に支援が必要な子どもやその保護者へ療育支援を行っています。少子化に反し、利用者は増加傾向にあり、様々なニーズに対応できるよう社会福祉士、心理相談員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、看護師等多種の専門職が支援にあたっています。

子ども相談課では、子育てに関する様々な相談を行っていますが、虐待やいじめ問題では、関係機関と連携し迅速な対応と予防対策に取り組んでいます。特にこちらについては、皆様方のお力添えが欠かせません。今後も、引き続きご支援とご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。これから寒い季節がやってまいります。皆様、どうぞお身体をご自愛ください。





「子どもが育つ手助けができたら」との思いから主任児童員を引き受けました。しかし、現実にはなにひとつ役に立つことができないと、自分の力のなさにうなだれるばかりです。今置かれている状況の子ども達に、自分のできることは何かと考えると、慄然とします。

子どもが子どもであることを許されない家庭が、数多くあります。

家庭は、生きるすべを伝えることのできる場です。清潔に暮らすこと、暖かく過ごすこと、食べること。生活の中からなんと多くのことを伝え、学べることでしょう。上手く機能しない家庭を見ていると、親から子へ「生活」が伝えられていないように思います。

子どもは親を選べません。自分の置かれた環境の中で育たなければなりません。厳しい環境でも、子どもには柔軟に学ぶ力があると思います。まわりの人々から何かしら学んでいるはずです。そう信じて、私が日常でできること。たとえば、「危ないよ」と声をかけること。暗くなったら「気をつけて帰ってね」と言うこと。挨拶が返ってくれば「いい挨拶だね。えらいね」と言うこと。ほんの少しでも、自分を見ててくれる大人がいることを知ってもらいたい。大人に、助けてと言っていいんだよとわかつてもらいたい。自分は自分だけの物で、親の物でも、誰の物でもないことに気づいてほしい。自分を大切にしてほしい。

「楽しかった」と思えることが積み重なって、心の財産になっていくのだと思います。心が大きく豊かになっていけば、自分に他の人にも優しくできるゆとりが生まれるのではないでしょうか。子どもに、楽しい体験を与えてあげられる大人で有り続けたいと思います。

自分が子どもだったことを忘れている大人がいます。やがて年をとって、お年寄りになってしまうことを考えない人もいます。自分が子どもの時にしてもらって嬉しかったこと、こうしてもらったらよかったのに、と思うことが少しでもできる大人でいたい。子ども応援団の大人が増えたらいいなと思っています。

「親はあっても子は育つ」子ども自身の育つ力を信じて、よりよい人生を歩んでいくて欲しいと願って止みません。



湖北地区民協 主任児童委員 大野 敦子

ネットの向こう側♥

第三地区民協 主任児童委員 野田 順子

SNS やネットで知り合った人による性犯罪被害は年々増加しており「同じ趣味や話が合う人に悪い人はいない」と考え、会ってみたいと思う青少年が増えています。ネットの向こう側の人を見極めることは大人でも簡単ではありません。私の身近にも一歩間違えば事件に巻き込まれていたという事例がありました。

❖ケース①15歳男子。ネットゲームで仲良しになった13歳女子に恋してしまい、家族旅行の最中にホテルを抜け出し、女子を呼び出し待ち合わせをして実際に対面した。その後、恋は自然消滅。

❖ケース②17歳女子。彼とけんかして「家出したい」とつぶやくとネットで知り合った20歳男性が岐阜県から車で我孫子まで迎えに来てくれ、そのまま男性の実家まで行ってしまった。その後不信と感じた男性の両親が警察に通報して岐阜の児相に送致、我孫子に戻った。

二つのケースとも、SNS の向こう側の人はなりすましまでは無く、年齢性別にウソの無い人物でした。けれども SNS では趣味があう良い人と思えたのに実際に会うと怖い人だったと言うことは多々起きています。安易に会ってしまったという事に恐怖を覚えました。思春期の複雑な気持ちを理解しつつ、取り返しの付かないことにならないよう、見守りの活動を続けていきたいと思っています。

主任児童委員としてできること♥

中央地区民協 主任児童委員 工藤 香織

私は主任児童委員になって5年目になります。最初の1、2年は手さぐり状態で右も左もわからないといった感じでした。先輩の児童委員の方から、私たちにできることは見守ることと、公共機関とそのご家庭を繋ぐこととアドバイスを受け、活動して参りました。

活動の中で印象に残っている事例は、母と子供2人の母子家庭で、姉弟喧嘩、親子喧嘩の激しさから、ご近所の方による通報があったり、母親からの直接の連絡があったりして私たちが駆けつけることが何度かありました。駆けつけてみると喧嘩はあらかた収まっており、両者の言い分を聞いて、ボタンのかけ違いを直すかのように、お互いの気持ちが理解できると笑顔を見せてくれるようになりました。今では母親からのSOSも減り、だいぶ落ち着いてきました。

私が初めて関わった事例もあり、児童委員らしい活動が初めてできた事例でもあったので、とても勉強になりました。これからも様々な事例と向き合っていくことになると思いますが、先輩方のお力を借りて、児童委員として真摯に活動していきたいです。



地域との見守り♥

布佐地区民協 主任児童委員 館野 尚子

布佐地区は、小学校2校、中学校1校で生徒、児童数も減ってきています。このような現状の中、大きな問題をかかえている子はなく、ここ2~3年は穏やかな地区と言えると思います。以前は児童相談所や市と共にケース会議をするという事例もありましたが転居、卒業という形で終結しています。ただその子等のその後の様子も、地域が狭いという事が幸いし、把握でき、民生委員と共に、見守ることが出来ています。もう一つよい点は、多くの子が同じ中学校に入学するため、年に一度の養護教諭との会議も三校が一緒に行うことが出来、情報交換の場となっています。

現在布佐地区主任児童委員の活動としては、各学校の入学式、卒業式、運動会に出席したり、登校時、秋の祭礼時のパトロール等を通して町の子供達を見て行く事が主になっています。そして学校との連携をとっていきたいと思っています。



ふさ子ども学習室★

～まちのシニア達が立ち上げた！～

家ではなかなか勉強しようとしない、お母さんが帰ってくるまでどうしても遊んでしまう、一人でやろうとしても気が向かない・・・そんな子どもたちのために、家庭学習する場所ができました。無料の「ふさ子ども学習室」です。

平成28年に布佐のまちの子どもたちの学力をもっと上げようとする小中一貫教育研究会が開かれ、まちの人々が、授業をはじめとしたさまざまな分野でお手伝いをしました。このメンバーの中から30人のシニアが「これからも子ども達に家庭で勉強する習慣がつくように、まちぐるみで手伝っていこう！」と立ち上がりました。

現在、毎週火曜日と木曜日の夕方、それぞれ新木駅前教室&布佐駅前教室、そしておおばん教室&ふさの風教室、さらに金曜日の南近隣教室の5ヶ所に子ども達が集まっています。

学校が終わって家に帰ったら、その日の宿題と家庭学習の用意をして、各教室に元気な挨拶をして入ってきます。そこではスタッフが笑顔で迎え、ひとりひとりが学校から渡されている「家庭学習の手引き」をもとに、自力でその日の宿題と授業の復習をして翌日の予習をします。分からなきがあれば、元教員のスタッフから教わる事も出来ます。

これまでに布佐・新木地区の小学生の1／6が「ふさ子ども学習室」を訪れています。

ふさ子ども学習室 代表 山下 正信

ときわ台町会は、白山3丁目、船戸1丁目、船戸2丁目を中心とする700余世帯をかかえる町会です。ときわ台町会設立60周年を迎えて、今年から防災活動に力をいれることになりました。防災は、自助(自分の身の安全を守るために一人一人が取り組むこと)・共助(地域で災害発生時に力をあわせること)・公助(公的機関が個人や地域では解決できない災害の問題を解決すること)の枠組みで展開していきます。町会として共助を具体的にどのように育んでいくか、きっかけづくりに丁度苦慮しているところでした。

この10年間は、町会会員のみに目を向けて、防犯、防火、防災、環境、見守り、親睦等につながる行事を開催してきました。その行事の一つに、書や絵画、手芸、工芸などの町会内の有志の作品や



成果を展示する「ときわ台町会交流サロン」があります。今年は、8月24日から8月26日の3日間、町会活動の拠点となります「ときわ台集会所」で、この行事を開催しました。例年と異なるところは、民生委員の皆様のお力添えにより、町会内外の人たちによる篤い交流と、結果として取り組むべき共助の機会を作つて頂いたことです。

そのお力添えは、かわいい猫人形を洗濯ばさみを使って作ろうという企画の教室を開くことでした。洗濯ばさみの挟むところが猫の手になるように、そして手でもつところが足になる型紙を使って、いろいろな模様の布地を切って縫い、中に綿を少々いれて人形にします。出来上がりは、洗濯ばさみに着物を着せた人形なので、それ自身で手が動くかわいい人形となります。小物に挟んだり、カーテンを止めるのに挟んだりとアイデア次第で個性あふれるワンポイントグッズにもなります。

一番良かったことは、大盛況で、参加した方たちの目は輝き、大変な手作業と思いきや一生懸命取り組んだ後、「かわいい」という声をあげ、達成感をみんなで共有したことでした。特に年配の方々の喜んでいる姿は、10年若返っていました。会話も、年齢に関係なく、とても弾んで、作りながら世間話にも、花を咲かせていました。当然、自主的に作業すすめるためにお互いを見守り、そして助け合い、マスターした人が、新しい先生になって、新しい参加者に教えるという姿を拝見させて頂き、無理なく楽しんでいることが伝わりました。別れ際では、この次に会ったときは旧知の仲の挨拶が交わせる雰囲気になっていました。まさに、この教室での参加者の絆を垣間見ることとなりました。

今回は、町会の枠を越えて地域の方たちの一段階質の高い親睦が得られるものとなりました。

参加された皆さんのが楽しく知り合えたことは、防災という何かの時の一一番の備えとなつたのではないでしょうか。この企画のおかげで、意義深い絆を育む機会を拝見させて頂き、共助の入口が見えてきたことを実感しました。民生委員の皆様には、本当に感謝しております。大変なお仕事だと思いますが、これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

町会長 久東義典



「ひなぎくの会・健康体操教室」

● 第三地区民協

高齢化が進みつつある「泉」で『年齢を超えて交流を楽しみ、支え見守りあう地域環境づくり』が出来るのではと、毎月第2金曜日を例会とする「ひなぎくの会」が平成20年に誕生しました。5年遅れて「健康生活サポートリーダー」が、ボランティアでご指導くださる月2回の「健康体操教室」を発足させました。両者毎回35人余りが参加され、平成30年10月でともに120回を迎えました。

毎年「祝い太鼓」で新春を寿ぎます。大イベントは、「バス旅行」「クリスマス会」です。クリスマス会ではお弁当とひなぎく特製のけんちん汁の昼食後、会員によるミニオペラコンサート等が開かれます。3月には立派なお道具を使って本格的なお茶会を開いていました。毎回ボランティアで多彩な活動グループのご披露を頂いています。どのグループの方からも「ひなぎくの方は、明るく元気で反応良く盛り上がりますね。」との声が届きます。ただ一つ残念なことは男性会員

の参加がとても少ないことです。ボランティアの皆様に感謝し、会員と世話役が一体となり楽しんでいる「ひなぎくの会」です。

ひなぎくの会 スタッフ



日帰りバス旅行

● 湖北地区民協

ややもすると家に閉じこもりがちな70歳以上でおひとり暮らしの方々を対象にお互いの親睦を図り、地域の繋がりを深めるため、湖北地区社協と共に長年日帰りバス旅行を行っています。年を追うごとに参加者も増え最近では湖北地区・新木地区毎に2回に分けて実施する程になっています。日帰りという制約もあり余り遠くまで行けませんが、これまでひたち海浜公園、横浜中華街、奥多摩などに出かけています。今回は江戸時代の面影を残す「小江戸川越」を計画しました。参加された方々の感想としては「行程がゆったりしていた」「食事が美味しかった」「また参加したい」など概ね好評です。民児協としては可能な限り地区社協と協力して継続していくたいと考えています。

湖北台敬老お楽しみ会

● 湖北台地区民協

湖北台地区では、毎年地区社協、民協共催で、3大行事の1つ、敬老お楽しみ会を開催しています。参加費はお弁当、お土産付で500円です。湖北台東小学校を会場に、お年寄りは会場まで、歩き、自転車、車、送迎バスとそれぞれの交通手段で来られました。

お楽しみは、落語（山遊亭くま八さん）、津軽三味線と民謡（伊藤茂秀・寿枝子ご夫妻）、東小児童によるダンスと歌（1・2年生）その後、東小児童からお年寄り一人一人にメッセージカードが配られ、児童との触れ合いもあり、大いに楽しんでもらいました。参加者は、湖北台1～10丁目のお年寄り、久遠苑入所者合わせて160名の参加で来賓として、星野市長、市議会議員2名、市社協、東小、西小、台中各校長先生の方に参加いただきました。毎年、元気なお年寄りの参加が増え、湖北台地区として楽しみの一つとなっています。



お手軽レシピ

焼き鳥

材料 2人分(6串)

- ◇鶏モモ肉……………1枚
(2cm角に切る)
- ◇長ネギ……………1本
(2cm長さに切る)
- ◇ししとう……………6本
- ◇生しいたけ……………3枚
(半分に切る)

タレ

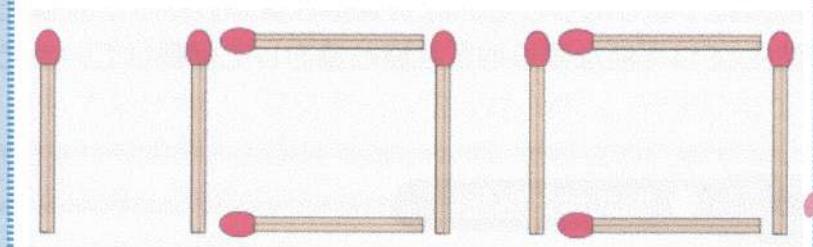
- ◇しょうゆ……………大さじ2
- ◇みりん……………大さじ2
- ◇砂糖……………大さじ1
- ◇酒……………小さじ1
- ◇レモン汁……………小さじ1
- ◇片栗粉……………小さじ1/2

作り方

- ①長ねぎ・肉・ししとう・肉・しいたけの順に串に刺す。
- ②フライパンにクッキングシートを敷き、①を並べる。
- ③フタをして中火で3分焼く。焼き色が付いたら、ひっくり返しフタは、しないで3分焼く。
- ④弱火にして、合わせておいたタレをまわしかけ照りが出たら出来上がり。

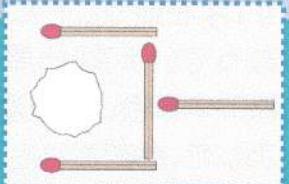


マッチ棒 クイズ

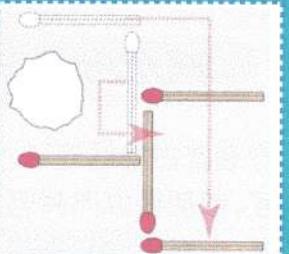


▲「100」の数字をマッチ棒2本移動して、2倍にして下さい。

▶ちらとりと「ゴミ」があります。マッチ棒を2本移動して、ちらりとから「ゴミ」を出してください。



↓ 前回の回答



| | | | | | | | | | | |
|-----|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 布 | 湖北 | 湖 | 第 | 第 | 中 | 第一 | | | | |
| 佐 | 台 | 北 | 三 | 二 | 央 | | | | | |
| 村 | 清水 | 土田 | 渡邊 | 石井 | 櫻上 | 松澤 | 渡辺 | 衣笠 | 黒田 | |
| 田 | 喜代 | 木 | 恵美 | 正克 | 宏静 | 恭利 | とし | 誠智 | 豊彦 | 子照 |
| 佐 | 木 | 壽子 | 弘明 | 子香 | 彦子 | 彦子 | 二子 | | | |
| タ | 木 | 恵美子 | 子 | 香子 | 彦子 | 彦子 | 二子 | | | |
| 佐々木 | 喜代美子 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 |

わざか8頁の広報誌“ひびき”。これまで何気なく手に持っていましたが、広報部の一員として広報誌作りに携わる様になり改めてこの小冊子を作るのに、感謝の意を述べてください。マッチ棒の選定・レイアウト・原稿依頼・校正等々いかに多く時間がと熱意が注がれていましたかを認識させられました。今回は主任児童委員の活動と地域との連携にスポットを当ててみました。この記事が皆様の日頃の活動に少しでも役立てられれば幸いです。(K・T)